





**表 「子どもとメディア」の問題に対する提言**

2004年2月 社団法人 日本小児科医学会

1	2歳までのテレビ・ビデオ視聴は控えましょう。
2	授乳中、食事中のテレビ・ビデオの視聴は止めましょう。
3	すべてのメディア接触の総時間制限が重要。1日2時間までを目安と考えます。
4	子ども部屋にテレビ、ビデオ、パソコンを置かないようにしましょう。
5	保護者と子どもでメディアを上手に利用するルールを作りましょう。

わが国では、若年層で子宮頸がんの罹患率、死亡率が増えていることが大きな問題となっています。

子宮頸がんの罹患率のピークは40歳以前には50代以降で、近年では20代後半から40代が非常に高い状況です。子宮頸がんの発生に与与するリスクは、若年層で子宮頸がんの罹患率、死亡率が増えていることが大きな問題となっています。

現在、市町村などで行われている対策型検診は、子宮頸部から採取した細胞を顕微鏡で見て診断する細胞診による検診が行われています。

私は、子どもの育ちの柱は次の4つを考えています。

①眼(目)  
②食(育)  
③遊(び)(つ)  
④愛(む)む

これはどれも一つ崩れても大きなダメージが与えられて危うい状況にあります。今、日本の子どもたちは「世界一睡眠不足だ」と言われています。

2004年、またスマホがなみ時代に、われわれ小児科医は「子どもとメディア」の問題に対する提言(表)を出しました。当時問題となっていたテレビ・ビデオは、その場から離れた見聞にはあっても、スマホがなみ時代に、われわれ小児科医は「子どもとメディア」の問題に対する提言(表)を出しました。

**危うい状況にある子どもの育ち**

がバランスよく養われることとにこだわらざるを得ない。食卓が苦痛な場所となり、食べることに苦しみ、寝ることに苦しみ、遊ぶことに苦しみ、愛されることに苦しみ、人と関わることに苦しむ。

**スマホ社会の落とし穴**

**スマホ社会の落とし穴**

日本小児連絡協議会主催  
パネルディスカッションから

**スマホ時代を賢く生きる 困っていませんか? 子どものスマホ**

内海裕美  
日本小児科医学会子どもとメディア委員理事

本紙既報のように、去る7月2日に東京・文京区でパネルディスカッション「スマホ時代を賢く生きる」——困っていませんか?——子どもとスマホ——を開催しました。

また、親がスマホの画面を見ている時は非常に視野が狭くなってしまいます。注意が子どもに向きません。しかも、ちょっとしたものが長時間にわたって見られる。家庭内で親がスマホを見ている間に赤ちゃんが事故に遭うケースが増えています。

**がん検診精密検査の受診率向上に向けて**

**5 子宮頸がん検診**

木口一成 本会検査研究センター長

がん検診によってがん死を減少させるためには、有効ながん検診を正しく実施する必要があります。

東京都の実施状況を見ると、子宮頸がん検診の検診受診率は低く、まずは許容値以上となるよう、精密検査受診勧奨を行うことが求められている。また、検診未把握率が非常に高く、「事業評価が困難」とされるほどである。

**子宮頸がん検診プロセス指標 (東京都)**

	あるべき値 (許容値等)	女性
受診率	目標値50%	20.7%
要精検率	1.4%以下	2.7%
精検受診率	70%以上	58.8%
精検未把握率	10%以下	38.6%
精検未受診率	20%以下	2.7%
陽性反応適中度	4.0%以上	1.7%
がん発見率	0.05%以上	0.05%

※利島村、三宅村は、毎年実施かつ2年連続受診者数未把握のため、受診率の集計から前年度受診者数を除いている。  
※利島村、御蔵島村、小笠原村は、要精検率以降の集計からは除いている。

東京都がん集計データ 平成26年度プロセス指標等一覧シート (都内の平均)より

「がん教育」で何を教えるのか

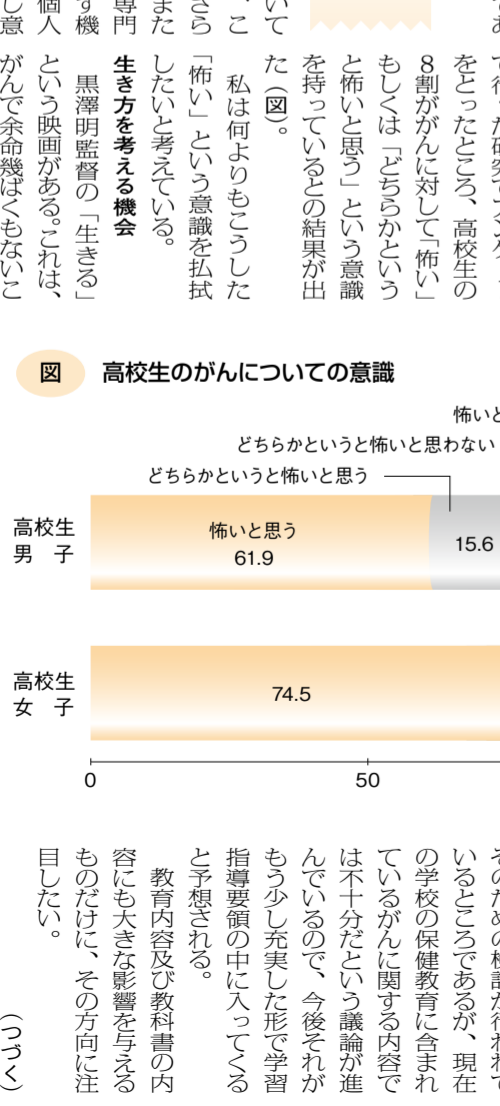
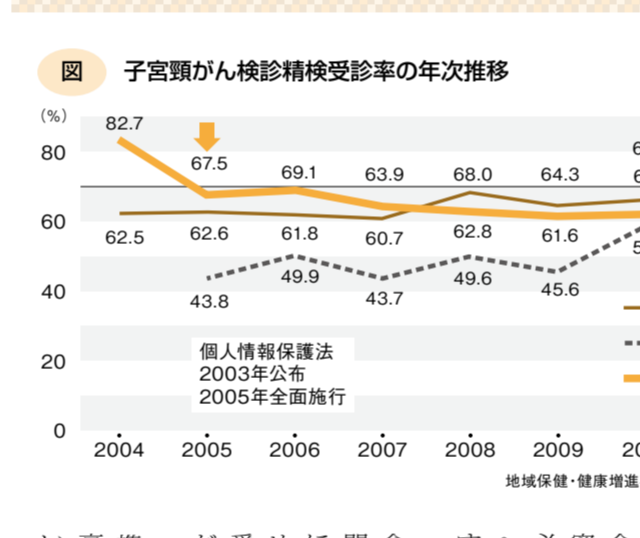
私が委員長を務めた「がん教育に関する検討委員会」では学校における「がん教育」の目標を大きく次のように設定した。

・がんについて正しく理解  
・がんの予防・早期発見・検査について正しく理解  
・がんの予防・早期発見・検査について関心を持ち、正しい知識を身につけ、適切な対応について理解できる

中高生のインターネット使用について私は今のところ、よほど注意して使わなければなりません。中高生のインターネット使用について私は今のところ、よほど注意して使わなければなりません。

**子どもネット使用に介入を**

赤ちゃんと愛着形成についても非常に心配です。有名なハリ・ハリ・ハローの狼の実験から、赤ちゃんと健やかに育つには、栄養と温もりだけでなく、反応と愛情の受け渡しが重要だといことがわかっています。



「がん教育」の目標とは

植田誠治 聖心女子大学文学部教授

「がん教育」の目標とは、がんについて正しく理解し、がんの予防・早期発見・検査について関心を持ち、正しい知識を身につけ、適切な対応について理解できることにある。

「がん教育」の目標とは

植田誠治 聖心女子大学文学部教授

「がん教育」の目標とは、がんについて正しく理解し、がんの予防・早期発見・検査について関心を持ち、正しい知識を身につけ、適切な対応について理解できることにある。

**4 義卵内腫瘍**

本書のスケッチは、本会の乳房超音波検査を担当する超音波検査士15人が描いている。

超音波検査士と日本乳がん検診精度管理中央機構の試験対策の参考書として、また乳腺を専らしない医師やナースが乳腺疾患全体を理解し、患者さん向き合うための手引書としても、最善の書である。

「知っておきたい! 乳房超音波画像とスケッチの書き方」

監修/角田博子 編集/坂佳奈子

「知っておきたい! 乳房超音波画像とスケッチの書き方」は、乳房超音波検査のイメージを捉え、検査結果を正確に表現するための唯一の指南書です。

**知っておきたい! 乳房超音波画像とスケッチの書き方**

監修/角田博子 編集/坂佳奈子

「知っておきたい! 乳房超音波画像とスケッチの書き方」は、乳房超音波検査のイメージを捉え、検査結果を正確に表現するための唯一の指南書です。



# 最新の話題で相互交流

## 第25回健康づくり懇話会総会

### がん治療と就労の両立支援や 大腸内視鏡検査めぐり講演

本会と本会のユーザーが健康づくりに役立つ情報交換と相互交流を目的に運営している健康づくり懇話会の第25回総会が、去る10月31日に都内のホテルで開かれ、事業所や健康保険組合の健康管理担当者や本会のスタッフら約1000人が参加した。総会では平成27年度事業報告と平成28年度事業計画が承認された。講演の部では荒木労働衛生コンサルタント事務所所長の荒木葉子(写真上)が「がん治療と就労の両立支援」について、松島クリニックの鈴木康元診療部長(写真下)が「大腸がん検診精検における大腸内視鏡検査の現状」について講演した。



働きながら、がんで通院している人の数が32・5万人に達する一方、仕事上の理由で適切な治療を受けることができていないケースも少なくない。また、私傷病になった従業員の適正配置や雇用管理等に苦慮する事業場が9割に達し、その概要を解説した。そして、自身が理事を務めるNPOキャンサーリボンズによる「がんと働く」リワークノットを紹介し、仕事と治療の両立に関する職場の役割、本人主体や当事者の立場で考えることの重要性、リ

ワークのポイントなどを詳しく解説。その上で荒木所長は、「メンタルヘルス対策で培ったノウハウや仕組みを活用しながら、『自分ががんになったら』という気持ちで制度を見直し、情報共有していただきたい」と呼びかけた。続いて登壇した鈴木康元診療部長は、大腸がんの実態と検診の現状と課題、本会の内視鏡センターの概要を示し、「大腸がんで死なないうためには、便潜血検査を毎年、5年以上続けて受けること。そして検査で陽性となった場合は必ず全大腸内視鏡検査を受けることが重要だ。要精検者にはぜひ内視鏡検査を受けようすすめて欲しい」と訴えた。

述べて、その概要を解説した。そして、自身が理事を務めるNPOキャンサーリボンズによる「がんと働く」リワークノットを紹介し、仕事と治療の両立に関する職場の役割、本人主体や当事者の立場で考えることの重要性、リ

ワークのポイントなどを詳しく解説。その上で荒木所長は、「メンタルヘルス対策で培ったノウハウや仕組みを活用しながら、『自分ががんになったら』という気持ちで制度を見直し、情報共有していただきたい」と呼びかけた。続いて登壇した鈴木康元診療部長は、大腸がんの実態と検診の現状と課題、本会の内視鏡センターの概要を示し、「大腸がんで死なないうためには、便潜血検査を毎年、5年以上続けて受けること。そして検査で陽性となった場合は必ず全大腸内視鏡検査を受けることが重要だ。要

ワークのポイントなどを詳しく解説。その上で荒木所長は、「メンタルヘルス対策で培ったノウハウや仕組みを活用しながら、『自分ががんになったら』という気持ちで制度を見直し、情報共有していただきたい」と呼びかけた。続いて登壇した鈴木康元診療部長は、大腸がんの実態と検診の現状と課題、本会の内視鏡センターの概要を示し、「大腸がんで死なないうためには、便潜血検査を毎年、5年以上続けて受けること。そして検査で陽性となった場合は必ず全大腸内視鏡検査を受けることが重要だ。要

ワークのポイントなどを詳しく解説。その上で荒木所長は、「メンタルヘルス対策で培ったノウハウや仕組みを活用しながら、『自分ががんになったら』という気持ちで制度を見直し、情報共有していただきたい」と呼びかけた。続いて登壇した鈴木康元診療部長は、大腸がんの実態と検診の現状と課題、本会の内視鏡センターの概要を示し、「大腸がんで死なないうためには、便潜血検査を毎年、5年以上続けて受けること。そして検査で陽性となった場合は必ず全大腸内視鏡検査を受けることが重要だ。要

ワークのポイントなどを詳しく解説。その上で荒木所長は、「メンタルヘルス対策で培ったノウハウや仕組みを活用しながら、『自分ががんになったら』という気持ちで制度を見直し、情報共有していただきたい」と呼びかけた。続いて登壇した鈴木康元診療部長は、大腸がんの実態と検診の現状と課題、本会の内視鏡センターの概要を示し、「大腸がんで死なないうためには、便潜血検査を毎年、5年以上続けて受けること。そして検査で陽性となった場合は必ず全大腸内視鏡検査を受けることが重要だ。要

ワークのポイントなどを詳しく解説。その上で荒木所長は、「メンタルヘルス対策で培ったノウハウや仕組みを活用しながら、『自分ががんになったら』という気持ちで制度を見直し、情報共有していただきたい」と呼びかけた。続いて登壇した鈴木康元診療部長は、大腸がんの実態と検診の現状と課題、本会の内視鏡センターの概要を示し、「大腸がんで死なないうためには、便潜血検査を毎年、5年以上続けて受けること。そして検査で陽性となった場合は必ず全大腸内視鏡検査を受けることが重要だ。要

ワークのポイントなどを詳しく解説。その上で荒木所長は、「メンタルヘルス対策で培ったノウハウや仕組みを活用しながら、『自分ががんになったら』という気持ちで制度を見直し、情報共有していただきたい」と呼びかけた。続いて登壇した鈴木康元診療部長は、大腸がんの実態と検診の現状と課題、本会の内視鏡センターの概要を示し、「大腸がんで死なないうためには、便潜血検査を毎年、5年以上続けて受けること。そして検査で陽性となった場合は必ず全大腸内視鏡検査を受けることが重要だ。要

# 人・往来

## ●東海大学の学生が本会で 統合実習

東海大学(学長・山田清志)では、公衆衛生看護学に関する統合実習を行っている。本会はその実習に協力し、10月3・15日、9人の学生を受け入れた。



めの子宮頸がんを入口とした女性のヘルスクエア向上プロジェクト」に取り組んでいる。10月7・21日、同プロジェクトに参加したカンボジアの産婦人科医7人が来日し、研修を行った。

このうち2人の医師が10月17・20日、本会を訪れ、施設の見学や病理細胞診のトレーニングを行った(写真)。

Tokyo 健康ウォーク

## 歩いて楽しく知ろう 大腸がん検診の大切さ

大腸がん検診の受診を呼びかける啓発イベント、T 6(主催・東京都、プレイブ都民らは、7時と12時のウォーキングコースに分かれ野総合体育館をスタート会場としてスタートし、秋の深まる武蔵野の街並みを歩きながら、クイズラリーポイントで出題される大腸がんに関するクイズを楽しんでいた(写真上)。

ウォーキング終了後には、大腸がんの体験者でもあるアロランニングコーチの金哲彦氏とフリーアナウンサーの原元美紀氏と共に、国立がん研究センターがん予防・検診研究セ



国立がん研究センターがん予防・検診研究センターの斎藤博部長が登壇。クイズの答えや大腸がん予防、がん検診の大切さについて解説した。

会場では40歳以上の希望者約800人を対象に便潜血検査による無料の大腸がん検診が行われ、本会が協力したとフリーアナウンサーの原元美紀氏(写真下)また、COPD(慢性閉塞性肺疾患)のリスクを臨床心理士、看護教諭など。詳細・申し込みはJ A E Dのホームページ(<http://www.jafed.jp/>)か。

会場では40歳以上の希望者約800人を対象に便潜血検査による無料の大腸がん検診が行われ、本会が協力したとフリーアナウンサーの原元美紀氏(写真下)また、COPD(慢性閉塞性肺疾患)のリスクを臨床心理士、看護教諭など。詳細・申し込みはJ A E Dのホームページ(<http://www.jafed.jp/>)か。

# 「次世代乳がん検診の夜明け」 テーマに久留米市で

## 第26回日本乳癌検診学会学術総会

第26回日本乳癌検診学会学術総会が、去る11月4・5日の2日間にわたり、福岡・久留米市で田中真紀会長(久留米総合病院院長)の下、開催された。

今回の学術総会は「次世代乳がん検診の夜明け」というテーマで、一昨年『THE LANCET』誌に「乳がん検診における超音波検査の有効性を検証するための比較試験(J-START)」が掲載されたことを受け、今後の乳がん検診のあり方についての議論が活発に行われた。

特に、昨年6月にマスコミにより、「高濃度乳房」の場合にはマンモグラフィだけでは発見しにくい乳がんがあることが報道されたことあり、高濃度乳房に関するデイスカッションが多くみられた。また、「高濃度乳房」に統一された。

「高濃度乳房に対するモダリティの役割」というシンポジウムでは、乳腺組織と脂肪組織の割合で乳房の状態を4段階に分けているが、このうち不均一高濃度と高濃度について高濃度乳房と定義した。また、以前は高濃度乳房という記載もあったが、「高濃度乳房」に統一された。

高濃度乳房であることを受診者に報告するかどうか、高濃度乳房であった場合は他の検査を追加すべきか、追加する学術総会であった。(坂佳奈子本会がん検診・診断部長)

高濃度乳房であることを受診者に報告するかどうか、高濃度乳房であった場合は他の検査を追加すべきか、追加する学術総会であった。(坂佳奈子本会がん検診・診断部長)

高濃度乳房であることを受診者に報告するかどうか、高濃度乳房であった場合は他の検査を追加すべきか、追加する学術総会であった。(坂佳奈子本会がん検診・診断部長)

高濃度乳房であることを受診者に報告するかどうか、高濃度乳房であった場合は他の検査を追加すべきか、追加する学術総会であった。(坂佳奈子本会がん検診・診断部長)

高濃度乳房であることを受診者に報告するかどうか、高濃度乳房であった場合は他の検査を追加すべきか、追加する学術総会であった。(坂佳奈子本会がん検診・診断部長)

## お知らせ

日本摂食障害協会(JAED) 実践・摂食障害の心理相談

2月26日(日) 10:16時 東京・港区「政策研究大学院大学会議室」

J A E D主催の講習会が2月26日に開かれる。摂食障害の第一人者による講義の他、「患者の声を聞く」なども予定されている。

参加費5000円。対象は臨床心理士、看護教諭など。詳細・申し込みはJ A E Dのホームページ(<http://www.jafed.jp/>)か。

# 健康管理相談をお引き受けします

当センターの会員が事業所、学校、各種団体の健康管理をアドバイスいたします。担当：江幡良晴

健康管理コンサルタントセンター 事務局 東京都新宿区市谷砂土原町1-2 (公財)東京都予防医学協会 電話 03-3269-1141

## 個人情報 の 取 扱 い に つ い て

日頃より、東京都予防医学協会の機関紙「よぼう医学」をご愛読くださりありがとうございます。本会では、現在「よぼう医学」を送付させていただいている皆様について、送付に必要な情報(名前、住所、所属、役職など)を送付名簿として保持しております。これらの個人情報の収集、保存、利用につきましては、本会の個人情報保護方針に基づき、厳重な管理の下に運用しております。その上で今後も継続して送らせていただきたいと思います。送付名簿から削除を希望される場合には、お手数ですが、右記広報室までご連絡ください。

## 送付先の変更・中止について

送付先の住所変更・購読中止の場合には、変更内容を本会広報室までお知らせください。

Eメール koho@yobouigaku-tokyo.jp FAX 03-3269-7562 電話 03-3269-1131 でも承っております。

